

大学による地方創生人材教育プログラム構築事業(COC+R) 事後評価結果

COC+R 大学名	山梨県立大学
事業名	VUCA 時代の成長戦略を支える実践的教育プログラム

【総括評価】

A 計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。

【コメント】

本事業中にコロナ禍などの経済的・社会的不況が発生したにも関わらず、事業計画をほぼ実現している。今後は、本事業で構築した教育プログラムをさらに充実化し、首都圏に接する地方自治体のモデル化に資するものに育つことを期待している。

<優れている点>

- ・地域から必要とされる人材を育成するという理念のもと、地域企業や自治体等関係機関とともに実務家教員を積極的に登用するなど実践的な5つの教育プログラムを構築した。
運営については、外部機関がプログラムを主導し、大学教員と事務職員がサポートする体制が構築されており、効果的かつ実践的な教育モデルと評価できる。学生受講者数も目標を大きく上回っており、学生と企業双方の満足度も高い。
- ・社会人受講者数が単年度100名を超えており、修了後も大学教育に関わるなど継続した関係性が見られる。また、高校生の先取り履修を導入し、その後の入学につながるなど入口から出口までを見据えたエコシステムが形成されつつある。
- ・自走化については、社会人用プログラムの有料化や寄附講座の実施、教養教育科目への位置づけなどの対策が講じられており、事業の継続性が見込める。
- ・県内の大学と連携して実施しているPBL演習「Miraiプロジェクト」では、令和7年度で34のプロジェクトに大学の枠組みを超えた138名の学生が参加し、学生と企業双方にとって実践を通じた多くの学びが得られている。

<今後、期待する点>

- ・地元就職者数が令和6年度で目標の85名を下回る30名にとどまっている。
今後は、PENTASを基盤とした文理融合による「創発デザインコース」の新設や総合型選抜の導入、高大接続、大社接続、SPARC事業との連動など多面的な取り組みにより、目標が達成されることを大いに期待している。